

北斗 **未来** 展望

Hokuto
Future
Prospects

みらい

★広報誌★ ほくと **7** VOL. **83** 新年特別号

2020年
twenty twenty





北斗病院 本館外来待合にて

園芸療法12ヵ月 17



contents

- 02 園芸療法12ヵ月 研修医日記
- 03 特集 社会医療法人 北斗 理事長 鎌田 一
- 06 HOKUTO NEWS



1月「冬場の活動と冬の庭」

関東以南の地域では、冬場でも露地で野菜を育てることができますが、この辺りは冬場の気温がとても低く、屋外で野菜や花などの植物を育てることが難しいので、園芸療法は室内での活動が主となります。2月や3月になると室内での種まきを始められるのですが、1月は「育てる」という活動がとても難しい月です。そのため、冬がくる前に作っておいた押し花やもみじの押し葉、秋に拾ったどんぐりや松ぼっくり、ラベンダーなどのポプリやアロマオイルなど、様々な植物材料を用いて活動をすすめています。

北斗福祉村ガーデン星の庭も、1月は白い雪に覆われて静かな時間が流れています。さすがにこの季節に訪れるひとはほとんどいませんが、積もった雪に小さな足跡がついているのを見ると、夜のあいだにキツネか野良猫か、生き物が活動している様子を知ることができます。ひとびとが寝静まった後、食べものを求めてやってくるのでしょうか。雪に月明かりが反射してほの明るい冬の夜、庭を静かに彷徨する様子が目に浮かびます。



十勝自立支援センター 園芸療法士 介護老人保健施設 かけはし 劔持 卓也
植物のある環境や植物を育てることを用いて、対象となる方々の心身機能維持、回復に取り組む。日本園芸療法学会認定・専門認定登録園芸療法士。
老健かけはしBlog(ブログ) 園芸療法の取り組みやかけはしのイベント情報等、随時更新。ぜひご覧ください。



社会医療法人 北斗は「プレシジョン・メディシンの実装」「地域医療・介護構想の実装」を事業方針の軸とする「地域医療・介護連携推進法人の構築」を実現するため、2040年に向けてさらなる活動を展開します。

令和元年を迎えた
2019年を振り返って

2019年は、1月に脳機能ビッグデータおよび解析ツール（通称MEAW SYSTEM）の無償公開を開始しました。我々が集めた脳機能データである脳磁図（MEG）のデータを、他の医療機関や研究でも利用いただけるようにした国内初の取り組みです。我々の目指すプレシジョン・メディシンの実装は、がんゲノム医療を中心として大きく進展し、想定以上のスピードでがんの臨床を変化させてきました。

4月からは、道内で初めて地方独立行政法人に移行した広尾町国民健康保険病院（以下、広尾町国保病院）との連携を開始しました。厚生労働省は9月に開催した「地域医療構想に関するワーキンググループ」で、再編統合の検討が必要とされる424の公立・公

研修医日記 Vol.4
初期臨床研修医1年目
高 振家

こんにちは、研修医1年目の高 振家です。中国出身です。実家は中国の東北地方で寒さは北海道とほぼ差がないぐらいですので、北海道の冬にも意外と慣れてきました。（笑）大学の頃に日本語の勉強を始め、日本のカルチャーに触れるようになり、北海道に来てもう2年が過ぎましたが、飽きずに楽しく働いています。周りにも中国に興味がある方がいらっしやいましたら、ぜひ声をかけて下さい。中国は広くて、日進月歩で、今変貌しつつあります。旅とか、楽しめる場所も結構あります。いろいろ案内致します。（笑）最後にこれからも変わらさずよろしくお願ひします。



貴州への家族旅行にてミャオ族の伝統衣装を初体験

チューター 整形外科主任医長
中村 聡喜先生

的病院等を公表し、医療機関の統合・再編成がいよいよ本格化してきました。地域医療構想と地域包括ケアシステムの両輪で医療機関の個別完結型から地域完結型への転換が鮮明になる中で、それを先取りするような形で広尾町国保病院との連携を始めたことは、これからの地域医療を考える上で重要なポイントになるでしょう。

更に、福祉村構想の最終的なシステム作りとして、8月に北斗福祉村ガーデン「星の庭」をオープンしました。ここでは「介護老人保健施設かけはし」の入所者が園芸をリハビリとして取り入れる園芸療法の実装を実現しています。この園芸療法は地域住民にも開放して、自然環境の中で入所者と一緒に散歩等を楽しんでもらうことを大きな目的としています。少子高齢化に伴い生産年齢人口が減少し変容する社会の中で、現在のコミュニティの崩壊は大きな課題です。新たな地域コミュニティへと作り変えていく必要があり、



そのひとつの方向性として「地域共生社会」を位置付けています。時代とともに変わって行く地域コミュニティのあり方に柔軟に対応しながら、世代を超えて地域が帯となって共生する「地域共生社会」が2019年の活動で着実に作り上げられてきたと実感しています。また、11月には「スマートリハ」プロジェクトをスタートしました。科学的根拠に基づきリハビリテーションの開発と普及に着手し、2020年に向けて更なる進展を計画しています。

我々の事業指針は「プレジジョン・メイシンの実装」、「地域医療・介護構想の実装」を軸とする「地域医療・介護連携推進法人の構築」と捉えています。医療は文化の鏡であり、医療を取り巻く事業の展開には哲学が必要です。一つひとつの取り組みは異なりますが、この3つの視点を統合していくことが、我々の理念の実現には不可欠なのです。



の苦しみの原因を見つけて診断することで個人にとって最適な治療が提案できるのであり、そのように展開していくのがこれからの医療なのです。

2020年の未来展望

2020年は「スマートリハ」プロジェクトをさらに発展させてまいります。このプロジェクトは、以前から研究を進めている視覚誘導性自己運動錯覚誘導システム「Kinvis（キンビス）」に加え、従来のリハビリテーションと先端機器を組み合わせて、最大限の成果を引き出そうというスマートリハ構想から生まれました。また新

公立病院との連携で 地域医療再生モデルを目指す

北斗病院の位置する十勝医療圏の19市町村は、帯広市を除いて公立病院を中心に医療資源が構成されています。十勝医療圏は日本で一番大きな医療圏であり、帯広から広尾まで車で90分程かかりますが、物理的な距離の問題を解決する手段は既に存在しています。地域医療を守るためにはICTなどを活用した効率的なシステムが必要です。広尾町国保病院とはICTを活用して電子カルテで患者情報を共有し、遠隔医療の研究を進めています。移動に空路を利用するののひとつの手段でしょう。十勝の医療圏という広い視点で病院改革を行い、合理的にタスクシフティング、タスクシェアリングすることは医療従事者の働き方改革にもつながります。広尾町国保病院との連携は、全国の地域医療の再構築を実現するモデルにしたいと考えています。北斗病院でも実用化されている遠隔画像診断や病理診断も、5G（第5世代移動通信システム）時代が本格化すれば、圧倒的な速度と大容量データの通信が可能と

し、リハビリ機器の導入だけを指すのではなく、リハビリ機器から得られる評価や治療データを解析し、治療効果に関する共同研究を進めていくことを目的としたプロジェクトです。これまでの経験則や主観に基づく評価から、より質の高い最適なリハビリを提供することが可能になると考えています。

また、AI問診システムの活用をさらに進展させます。病院で診察する際まず問診から始まりますので、ご本人の言葉で病状を話し、それを音声入力して電子カルテに登録していきます。この主訴（患者さん自身が訴える症状）からどのような診断が考えられるのか？8割程度は診断が可能であるといわれています。さらに集まった情報を加工して処理すれば、ビッグデータとして価値の高い情報が生み出されるのです。

さらに2020年度は、脳磁図（MEG）データを認知症領域の検診事業で展開する計画を予定しています。認知症は発症したら治らないといわれてきましたが、進行する前に診断して脳の活性化を徹底して訓練すれば、

なり、オンライン診療もさらに拡大すると期待しています。

AIでしか医療ビッグデータの 価値は引き出せない

これからの医療は情報産業としての色合いが濃くなっていきます。現在、医療に係る様々な情報、例えば文字情報や画像診断情報、プレジジョン・メイシンの核心を突くゲノム情報等のデータを一つに集めてビッグデータを構築する取り組みを進めています。こうしたデータを集めるには、集める目的やその先に何かがあるのかという明確なコンセプトが必要です。なぜゲノム情報を集めるのか、医療ビッグデータはなぜ必要なのか。その目的はただひとつ、病による苦しみから患者さんを解放放つことです。例えばコロノグラフィという検査は、大腸の中に管を入れず7〜8mもある腸を非侵襲的にCT連続画像で記録することができません。しかし、その画像をすべて人間の目で確認することは非常に困難です。このビッグデータの価値を引き出すのがAIです。AIであれば人間が及ばない速さと正確さで怪しい影が無いか簡単に発見することができます。それだけAIは価値あるものとして育ってきています。一人ひとりの「あなた」

ADLの改善を図ることは可能なのです。患者さん一人ひとりの脳活動の変化や効果を記録し、各種機器から情報を集めてMEG画像と組み合わせたいビッグデータにし、進行度などでパターン分類してAI解析すれば、より効果的で確実な治療が可能になると期待されています。

27年前の1993年1月18日にスタートした北斗病院は、第二次予防医療（発症前診断・発症前治療）を私達の医療活動の基軸として捉え（地域に開かれた医療の展開）を推し進めてきました。これからは、患者さんに最大限の価値を提案するため、数多くの価値あるデータを集め、解析し医療・介護における事業価値を高めるといふイノベーションを限りなく展開し、結果としてビッグデータをまともなあげ、それらを臨床現場や医療従事者の活動に生かして行かなければならないと考えています。



社会医療法人 北斗
理事長
鎌田 一
Kamada Hajime

膵がん早期診断プロジェクト進捗状況

「ステージ0膵癌診断症例」

北斗病院 消化器センター 副部長 河瀬 智哉

多くの患者様を診させて頂いて

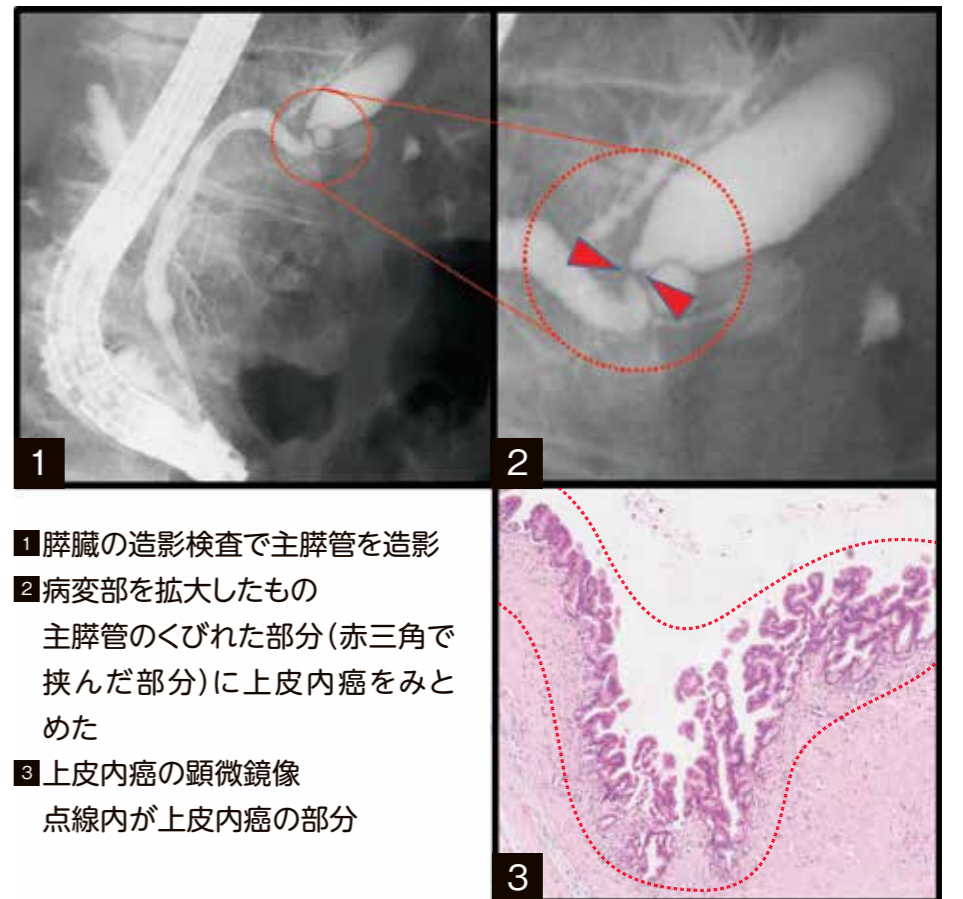
2018年から開始された膵がん早期診断プロジェクトでは初年度から確実にその成果を上げています。小生自身もともと膵癌の早期発見を専門にしていたこともあり、プロジェクト開始時膵癌発症のリスクをお持ちの方を既に200名以上フォローさせていただいていますが、この1年数ヶ月の間で350名に到達しようとしています。

プロジェクト開始以来、外来受診される方々から、膵癌の発症をとて心配しているもの、どこに相談したら良いかわからなかったとお声がけいただくことが大変多く、改めてみなさまの不安を払拭すべく膵癌の早期診断に邁進していかなければならぬと日々強く感じているところです。

ステージ0膵癌診断までの経緯

精査依頼で紹介いただいた

方の中で膵上皮内癌(腫瘤や浸潤する前の一番はじめの段階)であったことが判明しました。背部の違和感を自覚されかかりつけの病院でエコーやMRIの検査を受けたところ、膵内に嚢胞をみとめ、その嚢胞の前後で主膵管の太さに変化(経口不動)があったとのことでした。確かにCTや超音波内視鏡で膵臓を観察しても当然腫瘤像は全くありませんでした。入院していただき膵管造影の検査を実施したところ、指摘されていた場所に硬い狭窄性病変があることがわかりました。膵液の細胞診検査で癌細胞は出なかつたものの、癌の潜在を強く疑う所見です。ご本人ご家族に説明し手術を受けていただいた結果、今回指摘した部位を中心に上皮内癌が存在していたことが判明しました。当然上皮内癌の状態ですので腫瘤としての塊はどこにもありませんでしたが、癌が腫瘤を作る前からその前兆として膵臓内が



1 膵臓の造影検査で主膵管を造影
2 病変部を拡大したもの
主膵管のくびれた部分(赤三角で挟んだ部分)に上皮内癌をみとめた
3 上皮内癌の顕微鏡像
点線内が上皮内癌の部分

変化しているところをわかりつけの先生がお気づきになられたことが功を奏したと言えます。

これからも地域の為に

軽い症状であっても負担のない画像検査を専門の施設で改めて行っていたただくことで、より

日本脳卒中学会「一次脳卒中センター」(PSC)に認定されました

北斗病院 副院長・脳卒中センター長 新田 一美

当院は、一般社団法人日本脳卒中学会より「一次脳卒中センター」(PSC: Primary Stroke Center)として認定されました。認定期間は2019年9月1日から2021年3月31日までとなっています。

日本脳卒中学会は、日本循環器学会と共同で、「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」を2016年12月に発表しました。この中で「医療体制の充実」を掲げ、条件を満たす各地の病院を「一次脳卒中センター」に認定する制度を創設、まずは「一次脳卒中センター」を認定する作業が進められました。認定要件として、「地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が患者搬入後可及的速やかに診療(rt-PA静注療法等)を開始できる」「常勤の専門医が24時間体制で勤務している」など一定の要件を満たす医療機関が認定されました。

今後今まで以上に管内の医療機関、救急隊と連携を深め、十勝管内の脳卒中治療の中心となるべく、努力を続けてまいります。



緊急画像連携「HEMIシステム」の今後
「脳神経外科・脳神経内科にて運用中」

北斗病院 システム管理課 課長 北嶋 仁

緊急画像連携システム「Hokuto Emergency Medical Imaging System (HEMIシステム)」を11月から本格的に運用を開始しました。

これまでの地域連携システムとは違い、医師同士で操作できるツールがコンセプトで、いかに早く簡単に患者さんの画像(DICOM)を転送できるかが最大のポイントになります。

既に、広尾国保病院は5月から、浦幌診療所は11月から導入されており、緊急搬送するまでも無い患者さんにもコン

サルテーションとして活用して欲しいと、各医療機関にご説明しています。勿論、セキュリティ対応を考慮しVPN回線を利用したネットワークを構築し、当院へ転送した画像データも48時間で自動に削除される運用に改善しています。

脳神経外科医が24時間体制で待機する当院の役割から、脳疾患に関する地域医療連携構想をさらに充実化させ、十勝管内の各医療機関へより良い医療サービスを提供できる手助けになればと考えております。

緊急画像連携システム概要
(脳疾患対応例)

緊急画像連携システム概要 (脳疾患対応例)

先生、画像送ります!

画像確認します

広尾 浦幌

北斗

わかりました。搬送します!

搬送してください!

広尾 浦幌

北斗

医師 to 医師で対応可能なシステム

北斗福祉村通信 季刊誌 ミニオラが発行されました

- ボランティアガーデナー養成講座第2期生募集スタート!
- 北斗福祉村ガーデン星の庭情報盛りだくさん!

下記にて配布しております

北斗病院
帯広市稲田町基線7番地5

北斗クリニック
帯広市稲田町基線9番地1

十勝リハビリテーションセンター
帯広市稲田町基線2番地1

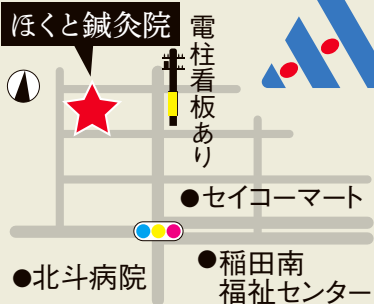
サービス付き高齢者向け住宅 あやとり
帯広市稲田町基線2番地1

十勝自立支援センター介護老人保健施設かけはし
帯広市稲田町基線2番地1



北斗病院から
徒歩3分

医師との共同研究で生まれた鍼灸院



ほくと鍼灸院

Hokuto Acupuncture & Moxibustion

関節・筋肉の痛み、しびれ、頭痛、めまい、
胃腸の症状、スポーツ疾患などでお悩み
の方、ぜひご相談ください。

☎070-2009-4740

予約制

LINE
予約可

* LINE *



帯広市西13条南41丁目2-7 〈受付 / 9:00~12:00・14:00~9:00〉 現金のみ

北斗病院・北斗クリニックでのお支払いは、現金のほか
クレジットカード、電子マネーのご利用が可能です。

電子マネーのチャージについてはローソンをご利用ください。窓口でのチャージはできません。ご了承ください。



※十勝リハビリテーションセンターは現金とクレジット、かけはしは現金のみとなっております。

お気軽にお問い合わせください

すべてのお問い合わせ ☎0155-48-8000〈北斗コールセンター〉



■関連施設

- | | | | |
|-------------------------|-------|------------------------|---------------|
| 北斗病院 | (帯広市) | ほくと自立支援ホーム/あおぞらクリニック | (帯広市) |
| 北斗クリニック | (帯広市) | 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ | (上士幌町) |
| 十勝リハビリテーションセンター | (帯広市) | 新得クリニック | (新得町) |
| サービス付き高齢者向け住宅 あやとり | (帯広市) | 熊谷総合病院 | (埼玉県熊谷市) |
| 十勝自立支援センター介護老人保健施設 かけはし | (帯広市) | HOKUTO画像診断センター | (ロシア・ウラジオストク) |
| | | HOKUTOリハビリテーションセンター | (ロシア・ウラジオストク) |